

**①目的**

- ・教科学習言語能力を伸ばすためには「読書力」を身につけることが重要となります。
- ・「読書力」とは、まとまりのある文章を読んで理解する「読解力」、文章をよりよく理解するために子どもが使用する読解ストラテジー（方略）や、文字・単語・文の読みの流暢さを表す「読書・音読行動」、そして本や読書への関わりや態度を示す「読書習慣・興味・態度」の3つの面からなる力を指します。
- ・DLA 〈読む〉では「読書力」を測ります。DLA 〈読む〉を通して、多角的かつ包括的に読書力を捉えることで指導・支援のヒントを得ると同時に、子どもが本に興味を示し、読書が好きになるきっかけを作ることを目指しています。

**②対象**

- ・DLA 〈読む〉は、日本語の文字の習得が進みつつある子どもから年齢相応の読書力を身につけている子どもまで、複数言語環境で育つ幅広いレベルの子どもを対象としています。
- ・ただし、対話を通して読書力を測るため、DLA 〈はじめの一歩〉でほとんど受け答えが成立しなかった子どもには実施できません。
- ・日本語の基礎的な読書力を身につけつつある子どもについては、その子どもの読書力の上限を正確に把握するために、母語での実施をお勧めします。DLA 〈読む〉を母語に翻訳して使用することはできませんが、子どもの母語ができる実施者がいる場合、読書力レベルに応じた母語のテキストを用意して、DLA 〈読む〉と同様の手順でアセスメントを実施することで、ある程度、母語での読書力レベルを推測できます。

**③構成**

- ・DLA 〈読む〉は、以下の3つから構成されています。
- ① 「DLA 〈読む〉 レベル別テキスト」（別冊資料）  
10のテキストがあります。子どもの年齢、滞日期間、日本語の力を考慮しつつ、選択します。
  - ② 「DLA 〈読む〉 実践ガイド」  
10のレベル別テキストに対応したDLA 〈読む〉実施の手引きです。実施者はこの手順、声かけ、発問例に従って進めます。
  - ③ 「DLA 〈読む〉 評価メモ」  
DLA 〈読む〉を実施したあと、テキストに対応した評価メモの観点にしたがって、何がどの程度できたかをメモします。

**④テキストの選択方法**

- ・DLA 〈読む〉では、以下の計10冊のレベルの異なるテキストを別冊資料として添付しました。
- ・次の【テキストレベルと「ことばの力のものさし」〈読む〉の対照表】を参考にし、子どもの年齢、滞日期間、日本語の力、興味や既有知識、その他の条件を考慮した上で最初に手にするテキストを選びます。表中の▲で示されたテキストは、そのレベルの子どもに最適というわけではなく、やや難しいと子どもが感じる可能性のあるテキストです。
- ・テキスト選定の際には、テキスト別実践ガイドに記載の「テキストについての補足」の情報も参考にしてください。

- ・DLA〈読む〉の実践ガイドにしたがって、子どもがテキストを手に取る様子や音読の流暢さを観察し、難しそうであればテキストのレベルを下げます。
- ・漢字についてはレベルに応じてルビが振られていますが、対象の子どもの既習漢字の読みの力を測定したい場合には、ルビを減らしてもかまいません。ただし、漢字が負担となって読みへの抵抗感を強めることがないよう、十分に配慮する必要があります。

【テキストレベルと「ことばの力のものさし」〈読む〉の対照表】

ステージ ステップ	A 【イマココ】 期	B 【イマココから 順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】期
8						「水の東西」
7					「自然を守る」 「アニメーションと わたし」	▲「水の東西」 「自然を守る」 「アニメーションと わたし」
6					「貝がら」	▲「アニメーションと わたし」 「貝がら」
5		「花いっぱい になあれ」		「花いっぱいになあれ」 ▲「あつまれ、楽器」		「あつまれ、楽器」
4		「ことりと木のは」				▲「あつまれ、楽器」
3	「えんそくのおとしもの」		「ことりと木のは」 ▲「ハチの話」			「ハチの話」
2	読み聞かせ		「えんそくのおとしもの」 ▲「カラスと水さし ～イソップ物語より～」			「カラスと水さし～イソップ物語より～」
1						▲「カラスと水さし～イソップ物語より～」

- ・「えんそくのおとしもの」はDLA〈読む〉用に書き下されたテキストです。
- ・「ことりと木のは」、「花いっぱいになあれ」、「あつまれ、楽器」、「貝がら」、「アニメーションとわたし」、「自然を守る」の6冊は過去に国語教科書（光村図書出版株式会社）に掲載された作品を集めた『光村ライブラリー』（2002,光村図書出版株式会社）から選び、初版（2014年発行）のDLA〈読む〉のレベル別テキストとして採用しました。
- ・「カラスと水さし～イソップ物語より～」、「ハチの話」はNPO多言語多読監修の日本語レベル別読み物で、滞日期間が短い小学校高学年や中高生（母語で一定の読書力を身につけた後に日本語習得が始まる子ども）向けのものです。「水の東西」は高校の複数の国語教科書に掲載されている論説文で、この度の改訂で新たに加えられたものです。
- ・詳しい出典、作者等については、「DLA〈読む〉レベル別テキスト」（別冊資料）をご参照ください。
- ・子どもの読書力の発達を継続的に観察し、適切な指導・支援を行うためには、より多くのレベル別テキストが必要です。この10冊のテキストは、DLA〈読む〉のアセスメント方法と読書力のレベルの目安を理解するためのサンプルです。各テキストの実践ガイドに記載された「テキストについての補足」を参考にしながら、市販のテキストなどからアセスメントに活用できる題材を適宜選び、読書力のアセスメントを継続的に行なうことが望ましいです。

## ⑤実施手順

### 事前準備 .....

- ・「DLA〈読む〉レベル別テキスト」（別冊資料）を、手に取って読めるように冊子状にします。
- ・スムーズに進められるように練習しておきます。「DLAワンポイントレッスン」の動画を試聴し、実施者の進め方や態度、テンポを参考にしてください。
- ・対象とする子どもが読めそうなテキストを別冊資料の中から2～3冊選び、対応する実践ガイドとともに準備します。
- ・録音または録画機器、メモ用紙を手元に用意します。

### アセスメントの実施 .....

- ・録音・録画機器の状態を確かめ、スイッチを入れてから、DLA〈読む〉を始めます。
- ・実践ガイドにしたがって、「読むまえに」「読みましょう」「話し合いましょう」「読んだあとで」の順に進めます。

#### ①読むまえに

##### 〔テキスト選択〕

- ・まず、対象の子どもが読める可能性のある上限レベルのテキストを渡し、音読の流暢さや子ども自身が「読める」と感じているかを観察しながらテキストを決定します。難しそうであれば、一つ下のレベルのテキストに変更します。

##### 〔興味・関心〕

- ・テキスト理解に関わる、いくつかのキーワードの意味を確認すると同時に、テーマについて子どもの関心を引き出します。

##### 〔予測・推測〕

- ・レベルに応じて、絵や挿絵を見たり、テキストの冒頭部分を読み聞かせて、内容について予測・推測を促します。

#### ②読みましょう

##### 〔読み聞かせ・音読・黙読〕

- ・実施者と一緒に1冊のテキストを最後まで読み切ります。実践ガイドにしたがって、まず実施者が読み聞かせを行い、その後、子どもが音読します。さらに、読書力レベルの高い子どもの場合は、黙読も取り入れます。
- ・音読・黙読の際、子どもが漢字の読み方や語彙の意味を質問した場合にはすぐに答えます。間違って読んだ場合でも訂正しません。

#### ③話し合いましょう

##### 〔あらすじ・要旨の口頭再生〕

- ・テキストを閉じて、読んだ内容についてあらすじや要旨を子どもが口頭で再生します。
- ・十分に再生できない場合、例えば、低年齢児に対しては「一緒に最初から思い出してみましょう」「初めてに誰が出てきましたか」「それから?」「最後にどうしましたか」、高年齢児に対しては、「まとめて話してくれましたが、もう少し詳しく教えてください」等と声かけをし、子どもの発話を最大限に引き出します。
- ・口頭再生の支援の際、子どもにテキストを見せることはお勧めしません。テキストを見ると、子どもが理解した内容を自分のことばで表現するのではなく、そのまま読んでしまうことが多いからです。一方で、子どもがテキストの内容を十分に理解していないとわかった場合には、テキストを開いて、子どもにもう一度読むように促したり、実施者が読み聞かせをしたりといった理解のための支援をしながら内容を確認すると効果的です。

### 理解を深めるやりとり・解釈・感想・意見

- ・口頭再生の内容に不足があった場合、その点についてさらに質問をしたり、理解を深めるための質問をしたりします。また、内容に関する感想や意見、その意見の理由や根拠を聞きます。上のレベルのテキストでは、あえて子どもの意見に反論し、考えを深めるよう促す質問をすることも効果的です。
- ・上のレベルのテキストでは、実践ガイドの記載の通り、この時点ではテキストを見せてもらいません。

### ④読んだあとで

#### ふり返り・読書習慣に関する質問

- ・やりとりをふり返り、子どもの頑張りを認めた上で、普段の読書習慣や読書・言語環境、読書についてどのように感じているか話し合います。

#### 読みへの反省

- ・高年齢児の場合は、自分自身がどのように読んで、どのように理解しているかということに対する反省を促します。

## ⑥実施上の留意点

### 流れを重視する

- ・DLA〈読む〉にかかる時間は10~25分程度です。時間をかけすぎず、自然な速さでテンポよく対話を進めます。
- ・途中で子どもの読みや発話を遮ったり、否定したり、訂正してはいけません。
- ・質問されたとき以外は、答えを教えません。質問されたときはわかりやすく答えます。
- ・話し合ったり、励ましたりしながら、子どもの理解を深め、発話をできるかぎり引き出します。
- ・子どもが考えていたり、応答するのに時間がかかっていたりするときは、焦らせらず、しっかり待ちましょう。

### 雰囲気作り

- ・和やかな雰囲気作りを心がけましょう。テストとして実施するのではなく、子どもとの読書の時間を楽しむつもりで臨んでください。子どもにとっても、楽しい読書の時間となるように心がけましょう。
- ・子どもの発話に対して、相づちを打ったり、うなずいたりして反応します。

### 対話中は採点しない

- ・子どもの面前で採点や評価をしないでください。評価は実施後に行います。
- ・正確な評価・記録のために録音もしくは録画をしましょう。

### ほめて終わる

- ・良いところを見つけて、積極的に褒めます。どんなレベルであっても、最後には、日本語で「読んで話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

### 母語の活用

- ・日本語で答えにくい場合には、母語で答えたり、絵や図を使って表現したりしてもかまいません。終了後に、録音したものを子どもの母語ができる人の助けを得て評価するなどの方法が考えられます。
- ・来日してからの期間が短い場合など、日本語よりも母語の読書力が高い子どもには、母語ができる実施者が母語でアセスメントを行うのも効果的です。DLA〈読む〉をそのまま母語に翻訳して使用することはできませんが、子どものレベルに合った母語のテキストを用意し、DLA〈読む〉と同様の手順でアセスメントを行うことで、母語での読書力をある程度推測することが可能です。日本語が習得途上にいる子どもの中には、学校で母語で学ぶ機会がなく、不得意な日本語でのみ学習を強いられることでストレスを感じている場合もあります。母語を用いたDLA〈読む〉の実施により、自分の力を発揮し、自信を取り戻す事例も見られます。

## ⑦評価の方法

- ・DLA 〈読む〉の終了後に、録音・録画をした内容を確認します。
- ・DLA 〈読む〉評価メモ (pp. 67-70) を使用して、観点にしたがって、何がどの程度できたかをメモします。
- ・評価メモに記入した内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉の「包括的なことばの発達ステージ」と「日本語の習得ステップ」の記述文に照らして評価します。「包括的なことばの発達ステージ」のほうは、日本語でのDLA 〈読む〉の結果からだけではなく、母語の力も推定しつつ、子どもが持っているすべてのことばを使ってできる最大限の力を包括的に捉えて評価します。
- ・DLA は子どものことばの力を点数化して、その結果を序列化するための標準化テストではありません。対話を通して、子どもがことばを活用して「できること」や「支援を得てできること」を観察し、その情報を学習の指導・支援に役立てるためのアセスメントです。
- ・ですから、ここで得られた結果を包括的かつ多角的な観点から捉え、次のステージとステップを目指した指導・支援につなげてください。詳しい指導・支援の方法については、「ことばの力のものさし」の実践ガイドをご参照ください。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話を話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を決める。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『えんそくのおとしもの』というお話です。  
はじめは私が読んで、○○さんには、ここ（7ページはじめ）から読んでもらいます。

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「えんそく」に行ったことがありますか。  
「えんそく」は好きですか／楽しかったですか。

## ④予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。  
これはどんなお話だと思いますか。

## テキストについての補足：

このテキストは、DLA〈読む〉用に書き下ろされたもので、絵のみでもストーリーが推測できる短い絵本です（1ページに1～3文程度）。文や単語の繰り返しによって、時系列に沿った展開が構成されています。

ひらがな、カタカナの拾い読みの段階の低年齢の子どもに適しています。高年齢の子ども（高学年以上）には、テーマが認知発達レベルに適さないため、原則として使用しません。

内容の理解が難しい子どもでも、絵を見ながら楽しさを感じ、ストーリーを想像できるように配慮します。「読みましょう」では、後半を子どもが読む形式ですが、文字の習得が十分でない子どもには読み聞かせたり、様子をみながら一緒に読むことも可能です。逆に、意欲があり、「1人で読みたい」という子どもに対しては、自分で読むように勧めてもかまいません。「話し合いましょう」の場面では、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すよう、スマールステップのサポートを心がけてください。

母語で読書力があり、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選択した子どもの場合は、日本語の音読やあらすじを話す力が十分でなくとも内容をよく理解できている場合があります。その際は、可能であれば最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合うとよいでしょう。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

## 読みましょう…

### ①読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、初めから5ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。  
後でどんなお話を聞きます。しっかり聞いていてください。

### ②音読：続きを子どもが読む。

- ・7ページの初めからテキストの最後までを指で押さえながら読む。(指を添えなくても読める場合は、実施者が押さえるか、無理にやらせなくていい。)



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。後でどんなお話を聞きますね。しっかり読んでください。はい、どうぞ。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。(特に訂正や指導はしない)

- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読みましたね。

## 話しゃいましょう…

### ①あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話をどんなお話をしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。  
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。  
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

### あらすじチェック

- 1. きょうは、(ももちゃんは) えんそく。
- 2. すいとうがおちちゃった。
- 3. 「これはなんだろう。」と、くません。
- 4. サンドイッチがおちちゃった。
- 5. 「これはなんだろう。」と、うさぎさん。
- 6. チョコレートもおちちゃった。
- 7. 「これはなんだろう。」と、りすさん。
- 8. (おべんとうの時間、リュックサックの中には) なにもない。
- 9. くませんとうさぎさんとりすさんが、「おとしものだよ。」とはしつてきた。
- 10. みんなでいっしょに「いただきます。」

# えんそくのおとしもの

(小学校低中学年用 ステージB～D ステップ2～3)

## ②理解を深めるやりとり：「絵」を見て、話し合いながら、理解を深める。

- あらすじ再生が難しい場合、「文字」ではなく、「絵」を見ながら、順序にそって、ストーリーを追い、その中で、子どもの発話を引き出す。

## ③文字と音の認識：文字と音との対応ができているか再度、確認する。

- 4ページをひらいて、次の質問をして、指で指し示せるかを確認する。



「くまさん」ということばはどこにありますか。  
「は」(wa)と読む字はありますか／どこにありますか。

- 5ページをひらいて、次の質問をする。



「サンドイッチ」ということばはどこにありますか。

- 9ページをひらいて、次の質問をする。



「へ」(e)と読む字はありますか／どこにありますか。

## ④解釈・感想：話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。  
どこが一番面白かったですか。  
どうしてそこが一番面白かったですか。  
思い出したことや考えたことはありますか。

## 読 ん だ あ と で …

## ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

## ②読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。  
自分で読むのと、お話を聞くのどちらが好きですか。  
おうちの人によく本を読んでもらいますか。  
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、図鑑、マンガなど）が好きですか。  
(わかれれば)好きな本の名前を教えてください。

- 母語で読書力がある子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。  
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など）  
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話をしたか話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『ことりと木のは』というお話です。どうですか。読みそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・1ページの冒頭の1～2文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。1ページを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読みそうですか。

- ・「読める」と言った子ども そのままこの実践ガイドにそって進む。

- ・「読めない」と言った子ども 低中学年用の一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「とり（ことり）」を知っていますか。見たことがありますか。  
「木のは」を知っていますか。

## ④予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。  
これはどんなお話だと思いますか。

## テキストについての補足：

このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学1年生「上」）に掲載されていたもので、挿絵によって時系列に沿ったストーリー展開が予測できる物語です。ひらがな、カタカナを習得し、おおむね単語や文節ごとに区切って読めるようになった低年齢の子どもに適しています。高年齢の子ども（高学年以上）には、テーマが認知発達レベルに適さないため、原則として使用しません。

まだ文字の拾い読み段階の子どもがこのテキストを選んだ場合、様子を注意深く観察し、必要に応じてテキストレベルを下げてもかまいません。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すようスマイルステップのサポートを心がけてください。

母語で読書力があり、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選択した子どもの場合は、日本語の音読やあらすじを話す力が十分でなくても内容をよく理解できている場合があります。その際は、可能であれば最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合うとよいでしょう。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

# ことりと木のは

(小学校低中学年用 ステージB～D ステップ3～4)

## 読みましょう…

### ①読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、初めから4ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。  
後でどんなお話を聞きます。しっかり聞いていてください。

### ②音読：続きを子どもが読む。

- ・5ページの初めからテキストの最後までを子どもに読ませる。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もしわからぬ  
ことばがあったら聞いてください。後でどんなお話を聞きますね。しっかり読んでください。で  
は始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。  
(特に訂正や指導はしない)
- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読みましたね。

## 話しゃいましょう…

### ①あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話をしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。  
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。  
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

### あらすじチェック

- 1. ことりのおかあさんが病気です。
- 2. ことりは、えさをさがしに行きました。
- 3. たかがことりにとびかかりました。
- 4. ことりは「たすけて。たすけて。」と（にげながら）さけびました。
- 5. 山の木たちは、いっせいにえだをゆすりました。
- 6. 木のはがいっぱいおちてきました。
- 7. たかは、ことりか木のはか、分からなくなりました。
- 8. ことりは、とんでいきました。

# ことりと木のは

(小学校低中学年用 ステージB～D ステップ3～4)

## ②理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- ・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問	解答例
1.はじめ、ことりは何をしに行きましたか。	1.木のみをとりに行った。
2.ことりはどうして木のみをとりに行きましたか。	2.おかあさんが病気で、おかあさんにあげるため。 (早く元気になってほしかったから。)
3.山の木たちはどうやってことりをたすけましたか。	3.えだをゆすって、木のはをおとして、ことりか木のはかわからなくした。
その他の質問（自由）	

## ③解釈・感想：お話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。  
どうして(そこが一番面白かった)ですか。

どこが一番面白かったですか。  
思い出したことや考えたことはありますか。

## 02 読んだあとで…

### ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

### ②読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。  
自分で読むのと、お話を聞くのどちらが好きですか。  
おうちの人によく本を読んでもらいますか。  
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、図鑑、マンガなど）が好きですか。  
(わかれれば) 好きな本の名前を教えてください。

- ・母語で読書力がある子どもには、次のような質問をしてよい。



○○語ではよく本を読みますか。  
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など）  
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話をしたか話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- テキストを子どもにわたす。



これは『花いっぱいになあれ』というお話です。○○さんは、ここ（8ページの最後から3行目を指して）から読みます。どうですか。読めそうですか。

- 1ページの冒頭の2文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ（4行目）までを声に出して読んでみてください。

- 子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めそうですか。

- 「読める」と言った子ども ➡ そのままこの実践ガイドにそって進む。

「読めない」と言った子ども ➡ 低中学年用の一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- 次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「ふうせん」を知っていますか。  
「花のたね」を知っていますか。

## ④予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。  
これはどんなお話だと思いますか。

## テキストについての補足：

このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学1年生「下」）に掲載されていた物語です。ひらがな、カタカナを習得し、単語や文節、文や意味のまとまりで区切りながら安定して読めるようになった低年齢の子どもに適しています。また、時間の流れに沿ってストーリーが展開する物語文のため、低年齢の子どもの読解力の発達を把握するのに適しています。高年齢の子ども（高学年以上）には、テーマが認知発達レベルに適さないため、原則として使用しません。

母語での話す力のほうが高い子どもに対しては、可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合うとよいでしょう。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

# 花いっぱいになあれ

(小学校低中学年用 ステージC～D ステップ4～5)

## 読みましょう…

### ①読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから8ページの7行目まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話を聞きます。しっかり聞いていてください。

### ②音読：続きを子どもが読む。

- ・8ページの8行目から最後までを子どもに読ませる。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もしわからぬことばがあったら聞いてください。後でどんなお話を聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聞く。(特に訂正や指導はしない)
- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読みましたね。

## 話しゃいましょう…

### ①あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話をどんなお話をしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

### あらすじチェック

- 1. 学校の子どもたちがふうせんにお花のたねをつけてとばしました。
- 2. まっかなふうせんが下りたところに、子ぎつねのコンが、いいゆめをみて、ひるねをしていました。
- 3. (目を開けると) まっかな花がさいていました。
- 4. コンはねっこをあなたにうめました。
- 5. つぎの朝、赤い花は小さくしぶんで、たおれていきました。
- 6. それから雨が毎日ふって、花のさいていたあとに、めがのびました。
- 7. ある日、大きな金色の花をさかせました。
- 8. 学校の子どもたちが、赤いふうせんにひまわりのたねをつけてとばしたのです。
- 9. 秋にはびっしりたねがみのりました。
- 10. コンはひまわりのたねを食べて、ゆめのことを思い出しました。
- 11. つぎの年、野原じゅうに、大きな金色のひまわりの花をさかせました。

# 花いっぱいになあれ

(小学校低中学年用 ステージC~D ステップ4~5)

## ②理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- ・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問	解答例
1. コンがみつけたまっかな花は何ですか。	1. ふうせん
2. まっかな花がたおれた時、コンはどんな気持ちでしたか。	2. とても悲しかった。
3. まっかな花がたおれた後、どうして、金色の花がさきましたか。	3. コンが紙づつみを赤い花のたねだと思ってうめて、雨が降って、その種から花がさいた。／学校の子どもたちがふうせんにひまわりの種をつけて飛ばしたから。
4. 金色の花をみて、たねを食べたとき、コンはどう思いましたか。	4. あのときみたいいゆめがこの金色の花がさいたゆめで、ゆめで食べた味だと思った。
その他の質問（自由）	

## ③解釈・感想：お話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



このお話は面白かったですか。  
どうして（そこが一番面白かった）ですか。  
どこが一番面白かったですか。  
思い出したことや考えたことはありますか。

## 読んだあとで…

### ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

### ②読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。  
自分で読むのと、お話を聞くのどちらが好きですか。  
おうちの人によく本を読んでもらいますか。  
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、図鑑、マンガなど）が好きですか。  
(わかれれば) 好きな本の名前を教えてください。

- ・母語で読書力がある子どもには、次のような質問をしてよい。



○○語ではよく本を読みますか。  
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど）  
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

- ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。  
可能であれば、母語で説明してもよい。



これから本と一緒に読みましょう。そして、どんな話か、話してください。

- ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたし、タイトルを指して次のように言う。



これは『カラスと水さし』です。読めますか／この話を知っていますか？

- ③興味・関心：めくって見せながら、日本語で読むことに関心を示すかどうか観察する。

- ・カラスや水さしの絵を指差しながら、次のような問い合わせをしてよい。



これはカラス／水さしですね。

- ④予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。

- ・日本語で十分に話せない場合は、無理に話すことを求めない。



絵を自由に見てください。  
これはどんな話だと思いますか？

- ・母語で話した子どものには、次のように促してもよい。



○○語で話してもいいですよ。

**テキストについての補足：**

このテキストは、日本語学習を始めたばかりの学習者向けにリライトされたイソップ寓話「カラスと水さし」で、NPO多言語多読が監修しています。NPO多言語多読が定めるレベルでは「レベル0（入門）」に位置し、横書きで、ほぼ絵のみでストーリーが理解できるよう構成されています。滞日期間が短い高学年や中高生の日本語の読書力を把握する手段として活用してください。ひらがなやカタカナを習得し始め、文字の拾い読みや単語や文節で区切って読む力を身につかつある高学年や中高生に適しています。

このテキストを選ぶ高年齢の子どもは、母語での読書力や話す力のほうが基本的に高いですが、日本語ではひらがなやカタカナが読めても、あらすじを再生することが難しい場合があります。そのような場合は、無理に日本語で話すことを求めるのではなく、可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合ったりしながら、子どもが「読めた」「話せた」と達成感を感じられるようにサポートしてください。

# カラスと水さし～イソップ物語より～

(小学校中高学年・中高生用 ステージD～F ステップ1～2)

## 読みましょう…

### ①読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せつつ、実施者が指で文字を押さえながら、初めから2ページまで声に出して読む。



「今日は、とてもあついです。カラスは、のどがかわきました。」「水～、水～」…

### ②音読：続きを子どもと交代しながら読む。

- ・3ページの初めからテキストの最後まで、一緒に指で文字を押さえながら交互に（あるいは一緒に）読む。



「はい、○○さん、読んで」  
「カラスは水が飲みたいです。でも…。」「だめだ～」…

- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

## 話しあいましょう…

### ①あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。話してください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。  
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。
- ・原則的にはテキストを閉じて内容を確認するが、子どもが日本語で話せない場合、テキストを見ながら、話し合ってもよい。日本語が話せない子どもに無理に話させようとして負担を感じさせないように注意する。
- ・実施者が子どもの母語がわかれば、母語で内容を聞いてもよい。

#### あらすじチェック

- 1. 今日はあついです。
- 2. カラスはのどがかわきました。
- 3. 水さしがあります。
- 4. カラスは水が飲みたいです。
- 5. でもだめです。
- 6. カラスは石をはこびます。
- 7. 入れます。たくさん入れます。
- 8. カラスは水を飲みました。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。



この話は面白かったです。どこが（どうして）面白かったですか。

- ・母語でやりとりをしている場合は、以下の質問を加えてもよい。



この話の大変なメッセージはなんですか。どうしてそう思いますか。  
そのメッセージに対して、○○さんはどう思いますか。

# カラスと水さし ~イソップ物語より~

(小学校中高学年・中高生用 ステージD~F ステップ1~2)

読 ん だ あ と で …

## ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。

- ・日本語でのやりとりが難しい場合、無理に読みへの内省や読書習慣についてやりとりを行わなくてもよい。
- ・可能であれば、母語で質問してもよい。

## ②読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。(読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、質問する、そのまま読み続けるなど)  
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど)  
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか)

## ③読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。○○語でよく本を読みますか。  
いつ読みますか。(朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後(うちで)など)  
この1学期間(1年間、○休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。  
○○語でどんな本を読みますか。  
(物語・小説、説明・情報文、教材、マンガ、インターネット上の情報など)  
○○語で好きな本の題名を教えてください。  
日本語では、どんな本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読みます。あとで、○○さんが読みます。最後に、どんな話か、話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『ハチの話』です。どうですか。  
読めますか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・1ページを音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んで、決めましょう。ここ（1ページ）を声に出して読んでください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読めますか。

- ・「読める」と言った子ども そのままこの実践ガイドにそって進む。

- ・「読めない」と言った子ども DLA 中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・「ハチ」や「先生」の絵を指して、次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



これは何ですか。そう、犬です。名前はハチです。この人は先生です。

- ・19ページの写真を見ながら次のように言う。



ここは東京の渋谷です。渋谷駅です。この駅にハチの像があります。  
どうしてハチの像があるのでしょうね。

- ・ハチの像が渋谷駅にある理由を知っている場合も知らない場合も、その点には特に触れず、そのまま次の「予測」に進む。

## ④予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見てください。  
これはどんな話だと思いますか。

## テキストについての補足：

このテキストは、NPO多言語多読による監修の「レベル別日本語多読ライブラリー」に収録されている話です。NPO多言語多読が定めるレベルでは「レベル1（初級前半）」とされています。滞日期間が短い高学年や中高生の日本語の読書力を把握する手段として活用してください。身近なトピックについて、日常生活で用いられる基本的な語句や単文を用いて書かれた短いテキストを、おおむね単語や文節で区切って読めるようになった高学年や中高生に適しています。

このテキストを選ぶ高年齢の子どもは、母語での読書力や話す力のほうが基本的に高いですが、日本語ではひらがなやカタカナが読めても、あらすじを再生することが難しい場合があります。そのような場合は、無理に日本語で話すことを求めるのではなく、可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合ったりしながら、子どもが「読めた」「話せた」と達成感を感じられるようにサポートしてください。

# ハチの話

(小学校中高学年・中高生用 ステージD～F ステップ3)

## 読みましょう…

### ①読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、初めから8ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。  
後でどんな話が聞きます。しっかり聞いてください。

### ②音読：続きを子どもが読む。

- ・9ページの初めからテキストの最後までを子どもに音読させるが、音読と默読とどちらのほうが内容がよく理解できるかを確認する。



これから○○さんが読みます。ここから最後まで声に出して読んでください。  
○○さんは声に出して読むのと、出さないで読むのと、どちらがよくわかりますか。  
もしわからぬことばがあったら聞いてください。  
後でどんな話が聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。  
(特に訂正や指導はしない)
- ・音読が終わった後、子どもの取り組みを認めた上で、默読のほうがよく理解できると言った子どもに対して次のように声をかける。



とても上手に／頑張って、読めましたね。



今、読んだところをもう一度黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

02

## 話しゃいましょう…

### ①あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。  
終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。  
重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。
- ・日本語が十分に話せない子どもに無理に話させようとして負担を感じさせないように注意する。  
実施者が子どもの母語がわかれば、母語で内容を聞いてもよい。

#### あらすじチェック

- 1. 先生がハチをもらいます。
- 2. 毎日ハチと先生はいっしょです。
- 3. 先生は大学へ行きます。ハチも一緒に駅へ行きます。
- 4. 夕方、ハチと先生は一緒にうちへ帰ります。
- 5. その日、先生は帰りませんでした。
- 6. 先生は大学で倒れました。もういません。
- 7. ハチはわかりません。先生を毎日待ちます。
- 8. 春も夏も秋も冬も、雨も雪も風も、先生を待ちます。
- 9. 10年毎日、渋谷駅へ行きました。
- 10. 今、渋谷駅にハチの像があります。

# ハチの話

(小学校中高学年・中高生用 ステージD~F ステップ3)

## ②理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- ・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問	解答例
1. どうして先生は帰ってきませんでしたか。	1. 大学で倒れて、亡くなってしまったから。
2. ハチはどうして毎日渋谷に行きましたか。	2. 先生に会いたかったから／先生が倒れたことを知らなかったから／先生に会えると思っていたから。
3. どうして、渋谷駅に今、ハチの像がありますか。	3. 10年も先生を待ったハチをみんながすごいと思ったから。
その他の質問（自由）	

## ③解釈・感想：話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



この話は面白かったです。  
どうして(そこが一番面白かった)ですか。  
どこが一番面白かったですか。  
思い出したことや考えたことはありますか。



この話の大事なメッセージはなんですか。  
どうしてそう思いますか。  
そのメッセージに対して、○○さんはどう思いますか。

## 読んだあとで…

### ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

- ・日本語でのやりとりが難しい場合、無理に読みへの内省や読書習慣についてやりとりを行わなくてもよい。
- ・可能であれば、母語で質問してもよい。

### ②読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。(読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、質問する、そのまま読み続けるなど)  
わからないことはがあったときはどうしていますか。(読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど)  
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか)

### ③読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。○○語でよく本を読みますか。  
いつ読みますか。(朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後(うちで)など)  
この1学期間(1年間、○休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。  
○○語でどんな本を読みますか。  
(物語・小説、説明・情報文、教材、マンガ、インターネット上の情報など)  
○○語で好きな本の題名を教えてください。  
日本語では、どんな本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『あつまれ、楽器』という話です。どうですか。読みそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・1ページの冒頭の3文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ（3行目）までを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読みそうですか。

- ・「読める」と言った子ども そのままこの実践ガイドにそって進む。

- ・「読めない」と言った子ども 中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「楽器（がっき）」を知っていますか。どんな楽器を知っていますか。  
「フライパン」「わゴム」「ストロー」を知っていますか。

## ④予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。  
これはどんな話だと思いますか。

## テキストについての補足：

このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学2年生）に掲載されていた説明文です。ひらがな、カタカナを習得し、単語や文節、文や意味のまとまりで区切りながら安定して読めるようになった子どもに適しています。長さは短いですが、説明文の構成理解が求められるため、低年齢の子どもにとっては内容理解が難しい場合が少なくありません。身近なテーマで簡単なまとまり（構成）のある挿絵つきの説明文のため、滞日期間の比較的短い高学年や中高生の日本語の読書力の把握に活用してください。

このテキストを選ぶ高年齢の子どもは、母語での読書力や話す力のほうが高いケースが多いです。この場合、音読が流暢でなくても黙読なら理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。可能であれば、最後に母語であらすじを話したり、内容について話し合ったりしながら、子どもが「読めた」「話せた」という達成感を感じられるようサポートしてください。

# あつまれ、楽器

(小学校中高学年・中高生用 ステージD～F ステップ4～5)

## 読みましょう…

### ①読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから2ページの最後まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんな話が聞きます。しっかり聞いていてください。

### ②音読：続きを子どもが読む。

- ・3ページの初めからテキストの最後までを子どもに音読させるが、音読と默読とどちらのほうが内容がよく理解できるかを確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。○○さんは声に出て読むのと、出さないで読むのと、どちらがよくわかりますか。もし、わからないことばがあったら聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方や、つまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。(特に訂正や指導はしない)
- ・音読が終わった後、子どもの取り組みを認めた上で、默読のほうがよく理解できると言った子どもに対して次のように声をかける。



とても上手に／頑張って、読めましたね。



今、読んだところをもう一度黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

## 話しゃいましょう…

### ①あらすじ再生：テキストをじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。重要な内容をふまえて、まとめて言っててもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくてもよい。

#### あらすじチェック

- 1. フライパン、わゴム、ストローは三つとも楽器としてつかうことができます。
- 2. 楽器は音の出し方で三つのなかまに分けられます。
- 3. 一つはたたいて音を出す楽器です。
- 4. たいこや木きん、フライパンもこのなかまです。
- 5. もう一つは糸をはじいたりこすったりして音を出す楽器です。
- 6. ギターやバイオリン、わゴムもこのなかまです。
- 7. さいごは、いきをふきこんで音を出す楽器です。
- 8. ふえやラッパ、ストローもこのなかまです。
- 9. 楽器を作って、音楽会をひらいてみましょう。

# あつまれ、楽器

(小学校中高学年・中高生用 ステージD~F ステップ4~5)

## ②理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し質問しますね。

質問	解答例
1. フライパンとわゴムとストローは、同じことに使います。何に使いますか（何になりますか）。	1. 楽器
2. 楽器は三つのなかまに分けられます。どんななかまですか。	2. たいこや木きん、ギターやバイオリン、ふえやラッパのなかま。／たたいて音を出すなかま、糸をはじいたりこすったりして音をだすなかま、いきをふきこんで音を出すなかま。
3. この三つのなかまは、どこ（何）がちがいますか。	3. 音の出し方
その他の質問（自由）	

## ③解釈・感想：話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



この話は面白かったですか。  
どうして（そこが一番面白かった）ですか。  
どこが一番面白かったですか。  
思い出したことや考えたことはありますか。



この話で、大事なポイントはなんだと思いますか。どうしてそう思いますか。

02

## 読んだあとで…

### ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

### ②読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



（内容で）わかりにくいところがあったら、どうしますか。（読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、質問する、そのまま読み続けるなど）  
わからないことばがあったときはどうしていますか。（読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど）  
○○語を使って考えたりしましたか。（した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか）

### ③読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本を読みますか。  
いつ読みますか。（朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）  
この1学期間（1年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。  
日本語と○○語では、どちらの本をよく読みますか。  
日本語／○○語でどんな本を読みますか。  
(物語・小説、説明・情報文、教材、マンガ、インターネット上の情報など)  
日本語／○○語で好きな本の題名を教えてください。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ(5ページ)から読んでもらいます。  
どうですか。読みそうですか。もう少し短い本にしますか。

- ・1ページの冒頭5行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。  
ここ(1ページの5行目)までを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



最後まで読みそうですか。

- ・「読める」と言った子ども そのままこの実践ガイドにそって進む。
- ・「読めない」と言った中学年 低中学年用の一つ下のレベルのテキストに変更
- ・「読めない」と言った高学年以上 中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。9ページの絵を見せててもよい。



これは『貝がら』という話です。「ばく」と「中山君」の話です。  
「貝がら」を知っていますか。見たことがありますか。

## ④予測：テキストを子どもに見せながら、2ページの12行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、もう一度はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

- ・読み終わったら、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。  
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

## ⑤読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、続きを4ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

読みましょう…

①音読：続きを読む。

- ・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

\* 黙読を選んだ子どもに対して 5ページ1行目から6ページの12行目までを音読で、6ページ13行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（5ページの1行目）からここ（6ページの12行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

- ・6ページの12行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。

\* 音読を選んだ子どもに対して 5ページ1行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ（5ページの1行目）から最後まで声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

- ・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。
- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

テキストについての補足：このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学4年生）

に掲載されていた物語文で、登場人物の心情や場面の描写、因果関係の理解が求められる内容です。ある程度の長さのある文章を、文や意味のまとまりで区切りながら読める子どもに適しています。まだ単語や文節で区切って読む子どもには、最後まで読み続けることが難しいかもしれません。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、様子を注意深く観察し、必要に応じてテキストレベルを下げてもかまいません。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すようスマールステップのサポートを心がけてください。

母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくとも黙読なら理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

# 貝がら

(小学校中高学年・中高生用 ステージD~F ステップ6)

## 話しあいましょう…

- ①あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。  
実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。  
終わったら『終わりです』と言ってください。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。

### あらすじチェック

- 1. (4年生に進級して) ぼくのとなりの席に (転校してきた) 中山君がすわることになった。
- 2. 中山君は自分のほうからは何も話しかけてくれなかった。
- 3. 中山君は (ぼくとだけではなく) 誰とも口をきかない (だまりこんでばかりいる)。
- 4. 図工の時間、中山くんがすばらしい海辺の景色の絵をかいていた。
- 5. 中山君は「前に住んでいた所」と自分のほうから説明してくれた。
- 6. 中山君の言葉に変ななまりがあり、女の子たちが笑った。
- 7. 中山君は一言もししゃべらなくなってしまった。
- 8. ぼくが病気になって欠席したとき、中山君はみまいに来てくれた。
- 9. 中山君がお母さんにあずけた箱には、いろいろな色や形の美しい貝がらがぎっしり入っていた。
- 10. ぼくは、今度こそ中山君と仲良しになれると思った。

- ②理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- ・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に、以下の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問	解答例
1. はじめの頃、ぼくは中山君のことをどう思っていましたか。	1. 話さないことに腹が立った／誰とも話さないから不思議だった。
2. 中山君は、なぜいつもだまっていましたか。	2. 自分の言葉のなまりがはずかしかったから。／笑われたくないで、しゃべらないように用心していた。
その他の質問（自由）	

- ③解釈・感想：感じたこと、考えたことについて話し合う。



- ・中山君はどうして貝がらを持ってみまいに来たのだと思いますか。
- ・どうして「今度こそ中山君と友達になれると思った」のでしょうか。
- ・もし、あなたかがぼく／中山君だったら、どうしますか。どう感じますか。
- ・この話はどこが面白かった／大事だと思いますか。それはどうしてですか。



この話を書いた人が伝えたかったのはどんなことでしょう。どうしてそう思いますか。

読 ん だ あ と で …

①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○きましたね。○○がよくわかっていますね。

②読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



(内容で) わかりにくいところがあったら、どうしますか。  
(読み返す、挿絵や写真を見る、イメージする、具体例を考える、自分の体験と結びつける、大事な情報が何か考える、質問する、そのまま読み続けるなど)  
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、挿絵や写真を見る、声に出して言う、推測する、質問する、そのまま読み進める、辞書を使うなど)  
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか)

③読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書、マンガではない本）を読みますか。  
いつ読みますか。（朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など）  
この1学期間（1年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。  
どんな本（伝記、歴史小説、物語、冒険もの、こわい話、マンガなど）が好きですか。  
(わかれば) 好きな本の題名を教えてください。

・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。  
○○語でどんな本を読みますか。（絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど）  
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ（5ページ3行目）から読んでもらいます。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。



少し読んでみて、決めましょう。  
ここ（1ページの3行目）までを声に出して読んでみてください。



子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。

最後まで読めそうですか。  
・「読める」と言った子ども そのままこの実践ガイドにそって進む。  
・「読めない」と言った子ども DLA 中高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



これは『アニメーションとわたし』という話です。「手塚治虫」という人を知っていますか。○○さんはマンガが好きですか。この人は「マンガの神様」と呼ばれている人です。この話はその「マンガの神様」がマンガやアニメについて書いたものです。

## ④予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから2ページの2行目までを実施者が読み聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、もう一度はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。



・読み終わったら、もう一度、次のように質問する。

ここまで、どんなことが書いてありましたか。  
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

## ⑤読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから5ページの2行目まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

# アニメーションとわたし

(小学校高学年・中高生用 ステージE~F ステップ6~7)

## 読みましょう…

### ①音読：続きを読む。

- ・まず、音読と默読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

\* 黙読を選んだ子どもに対して 5ページ3行目から6ページの5行目までを音読で、7ページ1行目からテキストの最後までを默読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（5ページの3行目）からここ（6ページの5行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

- ・6ページの5行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

\* 音読を選んだ子どもに対して 5ページ3行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ（5ページの3行目）から最後まで声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

- ・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。
- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

### テキストについての補足：

このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学5年生）に掲載されていた説明文です。語彙が増え、一定の長さとまとまり（構成）のある文章を、文や意味のまとまりで区切りながら流暢に読める子どもに適しています。まだ単語や文節で区切って読む子どもは、最後まで読み続けることが難しいかもしれません。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、様子を注意深く観察し、必要に応じてテキストレベルを下げてもかまいません。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待ち、はげましながら、発話を引き出すようスモールステップのサポートを心がけてください。

母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくともよく理解できていたり、默読ならさらに理解が深まる場合があります。默読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

# アニメーションとわたし

(小学校高学年・中高生用 ステージE~F ステップ6~7)

## 話 し あ い ま し ょ う …

- ①要点の再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。  
実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。  
終わったら『終わりです』と言ってください。

- ・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容・構成をどのくらい理解できているかをチェックする。

### 要約チェック

#### 時間の流れとエピソード：筆者とアニメーション

- 1. 小学生の頃 ⇒  動く漫画をノートに書いた
- 2. 初めてのアニメーション製作 ⇒  百何十枚もの絵を撮影して、動画をつくった
- 3. 大人になってから ⇒  ディズニー作品などを覚えるほど見て、勉強
- 4. 本格的なアニメーション製作 ⇒  「ある街角の物語」を6人の仲間でつくった
- 5. 日本で初めてのテレビ番組用アニメ「鉄腕アトム」の誕生

#### まとめ：アニメーションとは

- 6. 現実にはありえない世界を作り、夢をかきたててくれる
- 7. 見ることもだが、作ることがもっと楽しい
- 8. 苦しさを乗りこえて新しいものを作ったり、協力するという人生の大切なことを体験できる仕事

- ②解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

- ・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。  
この本を見ながら考えてもいいですよ。



アニメーションを作ることは大変なのに、どうして楽しいのでしょうか。  
この話で作者が伝えたかったことは何だと思いますか。どうしてそう思いますか。

- ・他の質問をしてもよい。

- ③意見：内容・要旨について意見を述べる。



この話は面白かったですか。どこが（どうして）面白かったですか。  
作者が伝えたかったことに対して○○さんはどう思いますか。どうしてそう思いますか。

# アニメーションとわたし

(小学校高学年・中高生用 ステージE~F ステップ6~7)

## 読 ん だ あ と で …

- ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○きましたね。○○がよくわかっていますね。

- ②読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



(内容で) わかりにくいところがあったら、どうしますか。  
(読み返す、イメージする、具体例を考える、大事な情報が何か考える、テキストの構造を考える、要約する、言い換えをしながら読む、質問する、など)  
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、声に出して言う、推測する、挿絵や写真を見る、そのまま読み進める、質問する、辞書を使う、など)  
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか)

- ③読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書、マンガではない本）を読みますか。  
いつ読みますか。(朝読書・図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など)  
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる（情報を集める）ため)  
この1学期間（1年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。  
どんな本（伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど）をよく読みますか。(わかれれば) 題名を教えてください。

- ・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてよい。



○○語ではよく本を読みますか。  
○○語でどんな本を読みますか。(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)  
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ（4ページ8行目）から読んでもらいます。  
どうですか。読みそうですか。もう少しやさしい本にしますか。



冒頭の2文（1ページ4行目まで）を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。

少し読んでみて、決めましょう。  
ここ（1ページの4行目）までを声に出して読んでみてください。



子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。

最後まで読みそうですか。



「読める」と言った子ども そのままこの実践ガイドにそって進む。

「読めない」と言った子ども ② 高学年・中高生用の他のテキストか、中高学年・中高生用の  
一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



これは『自然を守る』という話です。自然や環境について考えたことがありますか。  
どんなことですか。（子どもの発言内容に対して）それはいいですね。



・写真と語句について、簡単に説明する。



（5ページの写真）これは何でしょうか。木を食べる虫ですね。  
（6ページの写真）これは何でしょうか。火事で、木が全部焼けてしまっていますね。  
（10ページの写真）これは何でしょうか。稻（米）を食べる虫（害虫）ですね。

④予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから2ページの6行目までを実施者が読んで聞かせ、  
その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。

では、もう一度はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。



・読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。  
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

## ⑤読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから4ページの7行目まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

# 自然を守る

(小学校高学年・中高生用 ステージE～F ステップ7)

## 読みましょう…

### ①音読：続きを読む。

- ・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

\* 黙読を選んだ子どもに対して：4ページ8行目から6ページの9行目までを音読で、6ページ10行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（4ページの8行目）からここ（6ページの9行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願ひします。

- ・6ページの9行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

\* 音読を選んだ子どもに対して：4ページ8行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ（4ページの8行目）から最後まで声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願ひします。

- ・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。
- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読みましたね。

### テキストについての補足：

このテキストは、過去に光村図書出版の国語教科書（小学6年生）に掲載されていた説明文です。語彙が豊富で、一定の長さとまとまり（構成）のある文章を、文や意味のまとまりで区切りながら流暢に読め、社会的なテーマにも興味を持つ子どもに適しています。

母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくともよく理解できていたり、黙読ならさらに理解が深まる場合があります。黙読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

# 自然を守る

(小学校高学年・中高生用 ステージE～F ステップ7)

## 話 し あ い ま し ょ う …

### ①要点の再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。  
終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容・構成をどのくらい理解できているかをチェックする。

#### 要約チェック

現状	<input type="checkbox"/> 1. 人間は自然を資源として利用 <input type="checkbox"/> 2. 人間の都合のいいように自然を変えて生活
問い合わせ	<input type="checkbox"/> 3. この現状のままでよいのか
事実	<input type="checkbox"/> 4. 自然界のさまざまな生物たちはつりあいを保って生活
主張の根拠 自然が つりあいを 破った例	<input type="checkbox"/> 5. 風で木が倒れた→キクイムシが大発生→森を破壊→山火事→大洪水
主張の根拠 人間が つりあいを 破った例	<input type="checkbox"/> 6. イネの害虫を殺すために農薬をまいた→害虫の天敵のクモもいなくなったり→農薬に強い別の害虫が増えた
例のまとめ	<input type="checkbox"/> 7. 人間の活動が盛んになる→自然の破壊が進む→その結果、人間自身に不幸をもたらしている
筆者の主張 主張①	<input type="checkbox"/> 8. 人間は自然の資源を利用し、開発を進めながらも、自然を守って行く必要がある
筆者の主張 主張②	<input type="checkbox"/> 9. そのために、自然界の生物のつながりを正しく理解しておくことが大切
筆者の主張 主張③	<input type="checkbox"/> 10. 自然を守ることは、人間自身のためである

### ②解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手に話せましたね。今度は少し私が質問しますね。  
この本を見ながら考えてもいいですよ。



人間が思いのままに自然の姿を変え、その資源を自分たちのものにしてしまっていいでしょうか。それはどうしてですか。  
自然を守ることがどうして人間自身のためになるのでしょうか。  
この話で作者が伝えたかったことは何だと思いますか。どうしてそう思いますか。

・他の質問をしてもよい。

### ③意見：内容・要旨について意見を述べる。



○○さんは、自然の資源を利用し、開発を進めることについてどう思いますか。  
作者が伝えたかったことに対して○○さんはどう思いますか。どうしてそう思いますか。

# 自然を守る

(小学校高学年・中高生用 ステージE～F ステップ7)

## 読 ん だ あ と で …

- ①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

- ②読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



(内容で) わかりにくいところがあったら、どうしますか。  
(読み返す、イメージする、具体例を考える、大事な情報が何か考える、テキストの構造を考える、要約する、言い換えをしながら読む、質問する、など)  
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、声に出して言う、推測する、挿絵や写真を見る、そのまま読み進める、質問する、辞書を使う、など)  
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか)

- ③読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本を読みますか。  
いつ読みますか。(朝読書・図書の時間、休み時間、放課後(うちで)など)  
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる(情報を集める)ため)  
この1学期間(1年間、○休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。  
どんな本(伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど)をよく読みますか。(わかれれば)題名を教えてください。

- ・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてよい。



○○語ではよく本を読みますか。  
○○語でどんな本を読みますか。(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)  
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

## 読むまえに…

## ①手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんな話だったか話しましょう。

## ②テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ（2ページ1行目）から最後まで読んでもらいます。どうですか。読みそうですか。もう少しやさしい本にしますか。



少し読んでみて、決めましょう。  
ここ（1ページ5行目まで）を声に出して読んでみてください。



子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問する。

最後まで読みそうですか。  
「読める」と言った子どもそのままこの実践ガイドにそって進む。  
「読めない」と言った子ども DLA 高学年・中高生用の一つ下のレベルのテキストに変更

## ③興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



「鹿おどし」を知っていますか。  
(2ページの写真を見せて) これです。何のために使うか知っていますか？  
これは『水の東西』という話です。この「東西」は何を表すと思いますか。

このテキストの「東西」が「東洋」と「西洋」を表すことを知らない場合には説明を加える。

## ④予測：テキストを子どもに見せながら、1ページを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

読み終わったら、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。  
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

## テキストについての補足：

このテキストは、高校の複数の国語教科書に掲載されている論説文で、文化的な比較を通じて導き出される抽象的な概念について筆者の主張が述べられています。複雑な語彙や概念の理解に対応できる高校生向けの内容で、批判的に読み解く読解力が求められます。

母語で読書力が高い子どもの場合は、音読が流暢でなくてもよく理解できていたり、默読ならさらに理解が深まる場合があります。默読を繰り返してもよいことを伝えたり、わからない漢字や語彙について質問しやすい雰囲気を作るなど、適切なサポートを心がけてください。

読みましょう…

①音読：続きを読む。

- ・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って（声に出さないで）読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、話の内容がよくわかりますか。

\* 黙読を選んだ子どもに対して：2ページ1行目から4ページ3行目までを音読で、4ページ4行目から最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ（2ページの1行目）からここ（4ページの3行目）までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

- ・4ページの3行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

\* 音読を選んだ子どもに対して：2ページ1行目から最後までを音読で読ませる。



では、ここ（2ページの1行目）から最後までを声に出して読んでください。わからない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんな話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

- ・実施者は音読の流暢さ、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。
- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読みましたね。

# 水の東西

(中高生用 ステージF ステップ7~8)

## 話しあいましょう…

- ①要点の再生：子どもが読んだ部分の内容を再生する。実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。(テキストを閉じる必要はない)



ではこの話はどんな話でしたか。はじめてこの話を聞く人にわかるように話してください。  
終わったら『終わりです』と言ってください。

- ・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容・構成をどのくらい理解できているかをチェックする。

### 要約チェック

- |     |  |
|-----|--|
| 導入  | <input type="checkbox"/> 1.日本人（東洋）の水の捉え方としての「鹿おどし」の描写と、それに対する筆者の意見：<br>鹿おどしの仕掛けがかえって流れるもの（流れてやまないもの）を感じさせる           |
| 対比  | <input type="checkbox"/> 2.「噴水」という西洋の水の紹介<br>西洋での筆者の経験1：忙しさの中で「鹿おどし」に興味を示さない人々<br>西洋での筆者の経験2：噴き上げる華やかな噴水の方が人々をくつろがせる |
| 主題1 | <input type="checkbox"/> 3.日本と西洋の水文化の対比の抽象化<br>「流れる水」（日本）と「噴き上げる水」（西洋）→「時間的な水」（日本）と「空間的な水」（西洋）                       |
| 主題2 | <input type="checkbox"/> 4.形なきものを恐れない（愛する）日本人の感性に関する考察と<br>「見えない水」（日本）と「目に見える水」（西洋）への抽象化                             |
|     | <input type="checkbox"/> 5.「鹿おどし」は日本人の水の鑑賞行為の極致を表す仕掛け<br>→水を見ないで感じるという価値の具象化   |

- ②理解を深めるやりとり：適宜、話し合いながら、理解を深める。

### 追加質問

- |   |
|---|
| <input type="checkbox"/> 1.3つの対比表現「流れる水と噴き上げる水」、「時間的な水と空間的な水」、「見えない水と見える水」は何を意味していますか。本文の展開の上でどのような役割を果たしていますか。 |
| <input type="checkbox"/> 2.「鹿おどし」はなぜ、「日本人の水の鑑賞行為の極致を表す仕掛け」だといえますか。  |

- ③解釈・意見：話し合いながら、要旨について理解を深め、意見を述べる。

- ・テキストを見せながら、まとめの質問をする。



たくさん／頑張って／上手に説明できましたね。最後にまとめの質問をしますね。  
この本を見ながら考えてもいいですよ。



筆者の考えを○○さんのことばでまとめてください。  
筆者の考えに対して○○さんはどう思いますか。

- ・その他の質問をしてもよい。

- ④作品に対する評価：作品の構造・内容について評価する。



筆者は、鹿おどしと噴水の比較を通して、日本人と西洋人の感性・文化の違いに関する意見を述べていますが、その意見に賛成しますか、反対しますか。それはどうしてですか。○○さんは日本の文化をどのように捉えていますか。自分自身や自分自身の文化を振り返ってどのように感じますか。

読 ん だ あ と で …

①ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。  
○○さんはとても上手に／頑張って○○きましたね。○○がよくわかっていますね。

②読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



(内容で) わかりにくいところがあったら、どうしますか。  
(読み返す、イメージする、具体例を考える、大事な情報が何か考える、テキストの構造を考える、要約する、言い換えをしながら読む、別(反対)の視点から内容を考える、質問する、など)  
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、声に出して言う、推測する、挿絵や写真などを見る、そのまま読み進める、質問する、辞書を使うなど)  
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は、例えばどの場面でどのようにしたか)

③読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本を読みますか。  
いつ読みますか。(朝読書・図書の時間、休み時間、放課後(うちで)など)  
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる(情報を集める)ため)  
この1学期間(1年間、○休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。  
どんな本(文学作品、論説文、新聞・雑誌の報道文、インターネット情報)をよく読みますか。(わかれれば)題名を教えてください。

・母語で読書力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。  
○○語でどんな本を読みますか。(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)  
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

# ＼評価メモ①／

年 月 日

名前

学年(年齢)

年生(才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ①の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
低中学年用	ステージB～D ステップ2～3	えんそくのおとしもの	

## 読解力

1	順序・流れ (あらすじ)	重要な出来事を順序通りに再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
2	人物・場面 (様子)	登場人物や場面の様子を捉え、再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話せる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し

## 読書行動

4	予測・推測	絵から情報を読み取り、物語の流れを予測できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
---	-------	------------------------	---

## 音読行動

5	音読の正確さ	ひらがな文字の読み間違い、読み飛ばし、挿入などの間違いがなく読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
6	文字と音の対応	文字を指すとき、文字と音との一对一の対応ができる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
7	カタカナ語の識別と読み	カタカナ文字が読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
8	特殊読み	ひらがなの濁音・半濁音、拗音・長音・促音、助詞の「は」「へ」などの特殊読みができる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し

## 語彙・漢字

9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	登場人物、ものの名前を正確に再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
---	------------------	---------------------	---

## 読書習慣・興味・態度

10	読書嗜好	本や読書が好きである	<input type="checkbox"/> とても好き <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> あまり好きではない
11	読書の質と量 (一番よくできる言語で)	絵本などの短いまとまりのある本を読む／読んでもらう習慣がある	<input type="checkbox"/> よい習慣がある <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> あまり習慣がない

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。

# ＼評価メモ②／

年 月 日

名前

学年(年齢)

年生(才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ②の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
低中学年用	ステージC～D ステップ4～5	花いっぱいになあれ	
低中学年用	ステージB～D ステップ3～4	ことりと木のは	
<b>読解力</b>			
1 順序・流れ (あらすじ)	はじめから終わりまで順序よく、重要な出来事を再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
2 人物・場面 (様子)	登場人物や場面の様子を捉え、再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
3 感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話せる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>読書行動</b>			
4 予測・推測	挿絵や題名から情報を読み取り、話の展開を予測できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
5 音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>音読行動</b>			
6 区切り方	たいてい意味のまとまりや文節で区切って読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
7 音読の正確さ	読み間違いがなく、正確に読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
8 表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にも注意できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>語彙・漢字</b>			
9 あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙を再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
10 語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>読書習慣・興味・態度</b>			
11 読書嗜好	本や読書が好きである	<input type="checkbox"/> とても好き <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> あまり好きではない	
12 読書の質と量 (一番よくできる言語で)	自分のレベルに合った好きな本をたくさん読む	<input type="checkbox"/> よい習慣がある <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> あまり習慣がない	

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。

# ＼評価メモ③／

年 月 日

名前

学年(年齢)

年生(才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ①の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
中高学年・中高生用	ステージD～F ステップ4～5	あつまれ、楽器	
中高学年・中高生用	ステージD～F ステップ3	ハチの話	
中高学年・中高生用	ステージD～F ステップ1～2	カラスと水さし ～イソップ物語より～	

## 読解力

1	内容理解と要約 (一番よくできる言語で)	話の構成を理解し、重要な内容を再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
2	要旨・主題の解釈 (一番よくできる言語で)	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
3	要旨・主題に対する意見 (一番よくできる言語で)	自分の意見を、根拠を示しながら、説明できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し

## 読書行動

4	予測・推測 (一番よくできる言語で)	挿絵や題名から情報を読み取り、話の展開を予測できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
6	自分の読みへの内省 (一番よくできる言語で)	内容をよりよく理解するために、自分がどのように読んでいるか意識できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し

## 音読行動

7	区切り方	たいてい文節や単語で区切って読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
8	音読の正確さ	読み間違いがなく、正確に読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し

## 語彙・漢字

9	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく理解し、読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し
---	----------	------------------	---

## 読書習慣・興味・態度

10	読書の質と量 (一番よくできる言語で)	目的やレベルに応じた様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	<input type="checkbox"/> よい習慣がある <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> あまり習慣がない
----	------------------------	----------------------------------	---

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の様子や母語での読書力の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。

# ＼評価メモ④／

年 月 日

名前

学年(年齢)

年生(才)

以下のテキストを選択した場合、この評価メモ②の観点に基づいて、何がどの程度できたかをメモします。

テキストの対象年齢	「ことばの力のものさし」〈読む〉	テキストのタイトル	選択したテキストに○
中高生用	ステージ F ステップ7～8	水の東西	
高学年・中高生用	ステージE～F ステップ 7	自然を守る	
高学年・中高生用	ステージE～F ステップ6～7	アニメーションとわたし	
中高学年・中高生用	ステージD～F ステップ 6	貝がら	
<b>読解力</b>			
1 内容理解と要約	話の構成を理解し、重要な内容を再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
2 描写・説明	細部の情報を捉え、再生できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
3 要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
4 要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、説明できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
5 テキストに対する評価 (質問した場合)	テキストの構造や内容に対して、他のテキストと比較しながら、評価できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>読書行動</b>			
6 予測・推測	題名や挿絵、冒頭の内容などから情報を読み取り、話の展開を予測できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
7 音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
8 自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分がどのように読んでいるか意識できる	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>音読行動</b>			
9 区切り方	文や意味のまとまりで区切って流暢に読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
10 音読の正確さ	読み間違いがなく、正確に読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>語彙・漢字</b>			
11 語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく理解し、読める	<input type="checkbox"/> よくできる <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> もう少し	
<b>読書習慣・興味・態度</b>			
12 読書の質と量 (一番よくできる言語で)	目的やレベルに応じた様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	<input type="checkbox"/> よい習慣がある <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> あまり習慣がない	

選択したテキストのレベルと評価メモの内容を、日常の観察などと共に「ことばの力のものさし」〈読む〉に照らして、評価します。